自己評価報告書

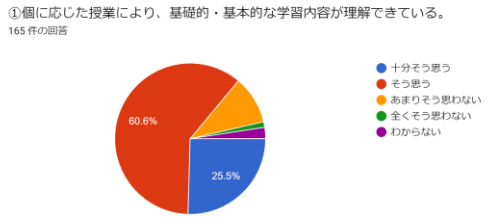
令和４年度　月島第一小学校　自己評価報告書
学校名：月島第一小学校　　所在地：中央区月島 4-15-1 校長名：荒川　比呂美 児童数：５６１名　　学級数：１９　　教員数：４４名　　職員数：６８名

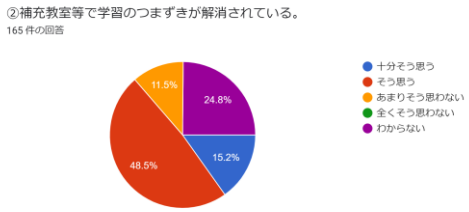
１　重点目標の達成状況及び取組状況

【保護者アンケート 165 名　提出率約 36%】

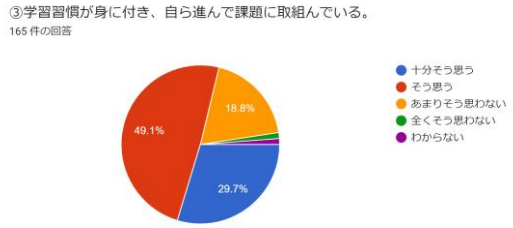
重点目標１「進んで学び深く考え、行動する子ども」

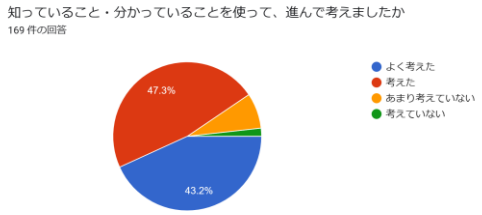
評価：保護者及び児童　【グラフは①②③保護者アンケート、児童アンケートの結果】





児童アンケート





「個に応じた授業により、基礎的・基本的な学習内容が理解できている。」の問いについては「十分そう思う・そう思う」と評価している家庭が８６．１％であった。コロナ禍で学習形態や内容に未だ一部制限がある中で、感染予防を踏まえた授業や行事への取り組みやタブレット端末を活用した多様な授業形態の実践が評価されていると考える。今後も、習熟度別指導や少人数指導を効果的に展開し、個に応じた指導の充実を図っていく。

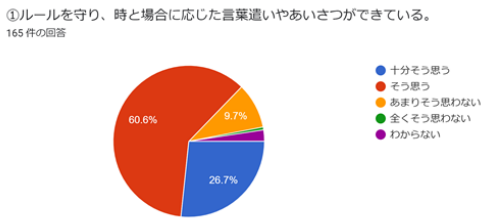
「補充教室等で学習のつまずきが解消されている。」の問いについては「十分そう思う・そう思う」の評価は６３．７％と低い数値となった。来年度は個別補習学習「スタディ月一」の時間を確保し、基礎学力のさらなる定着や、小集団等を活用した授業形態の工夫などを行いたい。さらに、思考ツールの活用や質の高い対話場面を生み出し、自分の考えや思いを適切に表現できるようにするなど、今後も引き続き分かりやすい授業を追究していく。

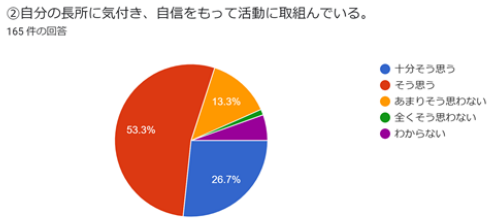
「学習習慣が身に付き、自ら進んで課題に取組んでいる。」の問いについては「十分そう思う・そう思う」と評価している家庭が７８．８％となった。さらに、児童アンケートについても、「知っていること・分かっていることを使って、進んで考えましたか。」の問いについて「よく考えた・考えた」と回答した児童が９０．５％となった。全児童対象にタブレット端末が貸与され、写真や動画、音声などテキスト以外の表現が容易になり、学習の質を高めることができた。また、児童もタブレットの扱いに慣れ、効果的に活用しての協働学習や、興味・関心、学習進度に合わせた学習が可能となり、進んで課題に取り組むきっかけにもなっている。

家庭学習の習慣化については、年度当初に各御家庭に「家庭学習のすすめ」を配布し、学習用具の準備や学習時間を決めて取り組む等、学習環境を整えていただくよう連携を図っている。今後も学年だよりや学級だよりを継続し、御家庭で行うべき学習内容をお伝えしていきたいと考えている。

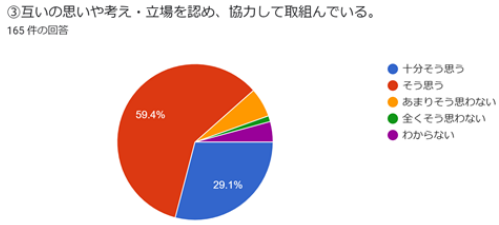
重点目標２「思いやりをもち、助け合う子ども」

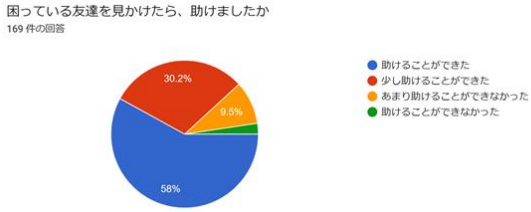
評価：保護者及び児童　【グラフは①②③保護者アンケート、児童アンケートの結果】





児童アンケート





重点目標２

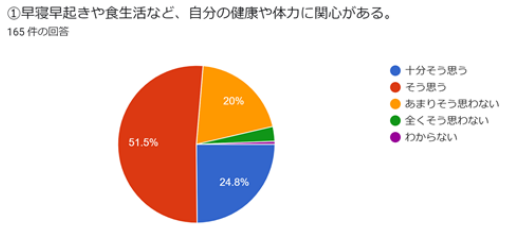
「ルールを守り、時と場合に応じた言葉遣いやあいさつができている。」「自分の長所に気付き、自信をもって活動に取組んでいる。」については、「十分そう思う・そう思う」と回答した家庭の割合が８０％を超えている。

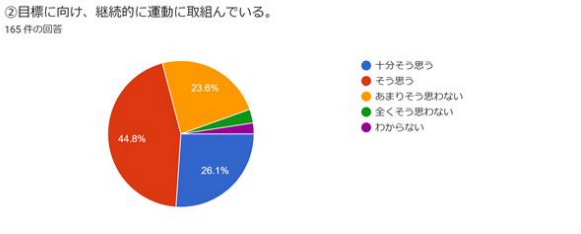
自分の長所については、自己肯定感が低いという調査結果が出ている日本の子供たちだが、本校の児童は年々自らの自信を高め、生き生きとした姿が見られる。

一方で、あいさつについては、教職員側の印象としては、朝元気がなく、明るく進んであいさつすることができない子供たちがまだおり、解決していきたい課題だと捉えている。児童一人一人の心の安定を見守りながら、今後も進んであいさつする児童の育成を推進していきたい。

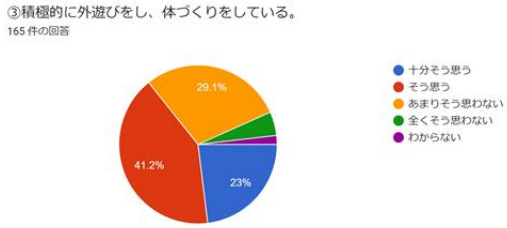
「互いの思いや考え・立場を認め、協力して取組んでいる。」の問いについては「十分そう思う・そう思う」と評価している家庭が８８．５％となった。さらに、児童アンケートについても、「困っている友達を見かけたら、助けましたか。」の問いについて「助けることができた・少し助けることができた」と回答した児童が８８．２％となった。年間を通し、「たてわり班活動」や異学年交流等の活動を推進し、協力や思いやり、集団生活を営む上でのルールや責任感を育んできた成果が表われてきたと思う。また、多様な価値観に触れさせ、行事や日頃の学習・学校生活を通して友達と関わる場面を意図的に設定してきたことで「みんなで」「協力して」つくり上げようとする姿が見られた。互いの思いや立場を認め、協力していこうとする力が育ってきている。

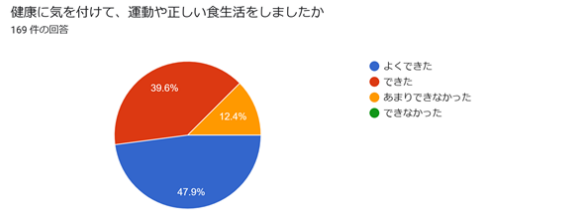
重点目標３「健康で、ねばり強い子ども」
評価：保護者及び児童　【グラフは①②③保護者アンケート、児童アンケートの結果】





児童アンケート





「早寝早起きや食生活など、自分の健康や体力に関心がある。」の問いについては「十分そう思う・そう思う」と評価している家庭が７６．３％であった。また、「目標に向け、継続的に運動に取組んでいる。」の問いについては「十分そう思う・そう思う」と評価している家庭が７０．９％であった。早寝早起きなどの基本的な生活習慣が未だ完全には身に付いていない現状がうかがえる。さらに、本校の児童の実態を体力調査から分析すると、各学年男女の体力合計点はおおむね東京都もしくは区内の平均を上回っているが、項目別で見ると、「握力」の数値が平均を下回っている。そのため、マイスクールスポーツの縄跳びやボルダリングの活動を計画的に行い、児童にも目標をもって運動に取組めるように支援していく。

「積極的に外遊びをし、体づくりをしている。」の問いについては「十分そう思う・そう思う」と評価している家庭が６４．２％であった。また、児童アンケートについては、「健康に気を付けて、運動や正しい食生活をしましたか。」の問いについて「よくできた・できた」と回答した児童が８７．５％となった。コロナ禍の状況下、体力の低下が懸念される中で、体育学習においても友達と切磋琢磨し、自らの伸びを感じられる授業の工夫を行うことで、少しでも運動を好む児童を育てていきたい。また、帰宅後の体を動かす遊び時間の確保はとても大切であると考える。感染症拡大防止に配慮しながら、「放課後遊び」の時間を確保し、外遊びを推奨していきたい。

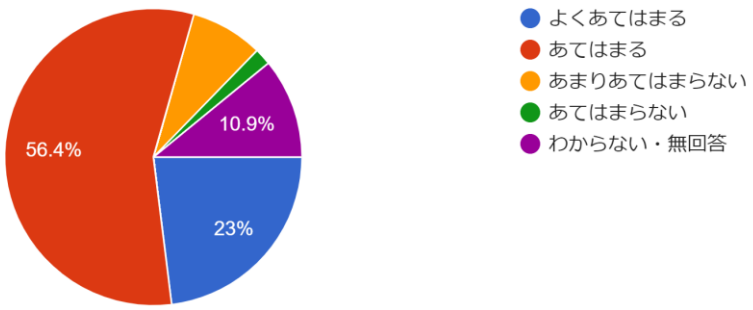
食に関しては、保護者の献身的な協力の下、月一園での収穫の喜びを体験したり、テーマを決めた工夫した給食を提供したりする中で、家庭での食生活も含めた健康的な生活習慣を身に付けるよう引き続き声を掛けていく。

２　重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケート

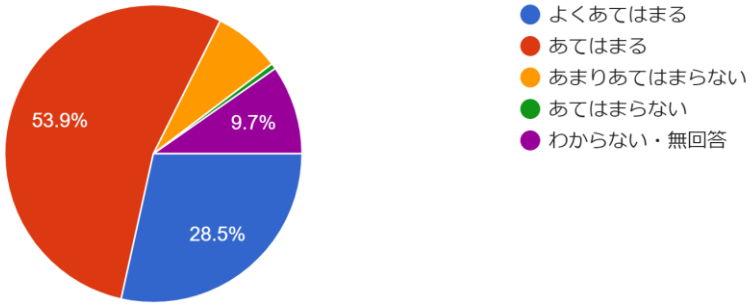
1）学校は学習内容がわかりやすくて楽しい授業をしている。

165 件の回答



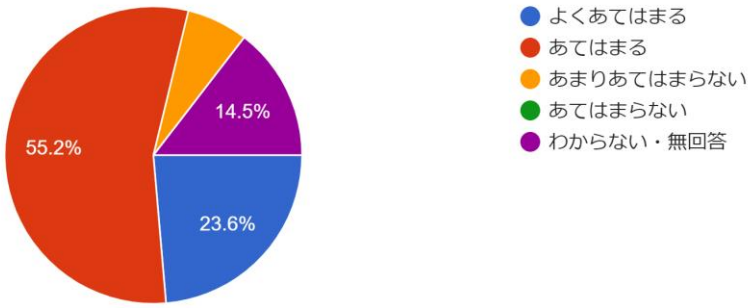
2）学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている。

165 件の回答



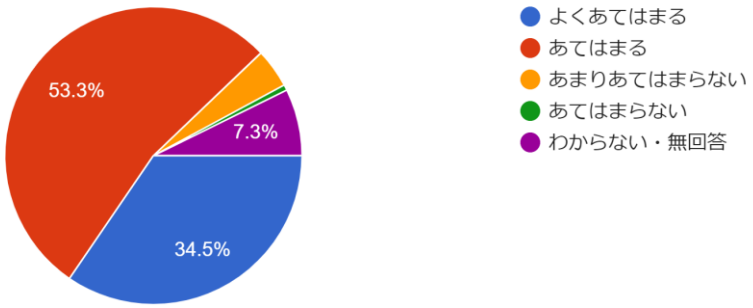
3）学校は通知表等を通して児童の学力を適切に評価している。

165 件の回答



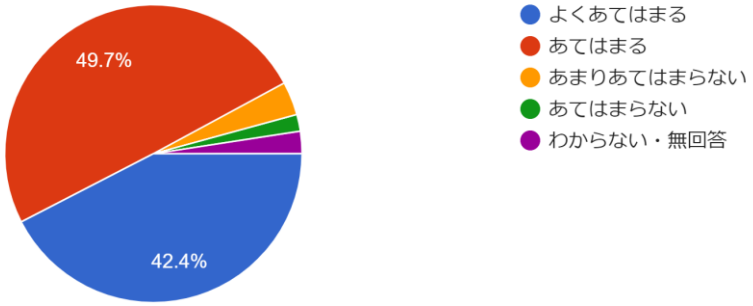
4）学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。

165 件の回答



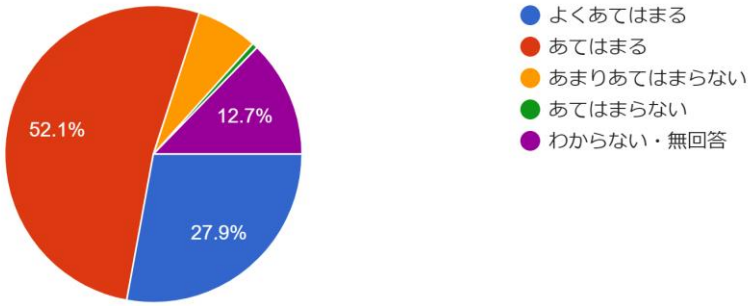
5）児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。

165 件の回答

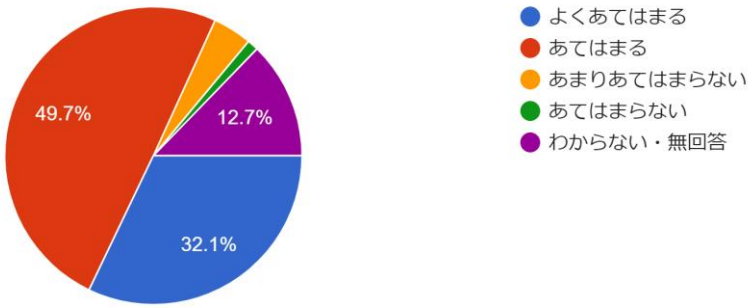


6）学校は児童の健康・体力の増進に努めている。

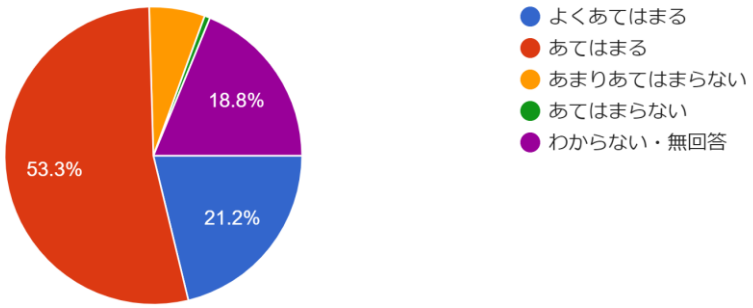
165 件の回答



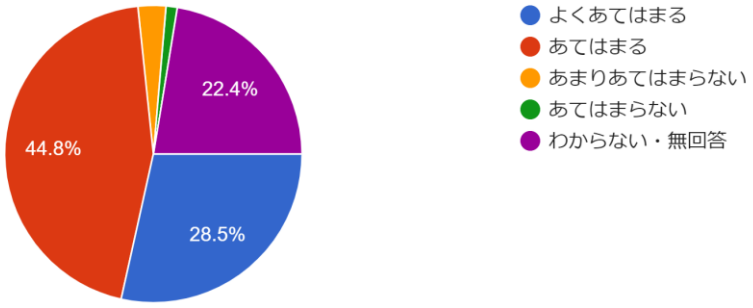
7）学校は道徳教育に力をそそぎ、児童に思いやりの心や規範意識を育てている。
165 件の回答



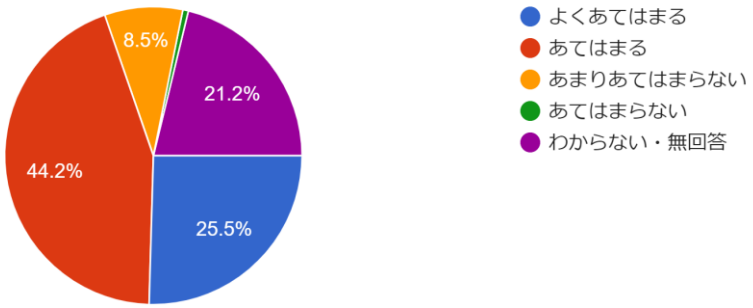
8）学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている。
165 件の回答



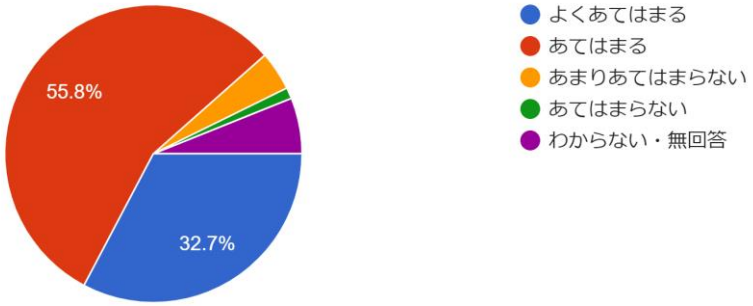
9）学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で児童の指導にあたっている。
165 件の回答



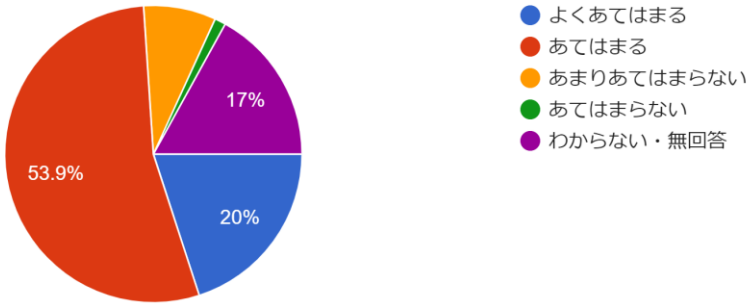
10）学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。
165 件の回答



11）学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。
165 件の回答

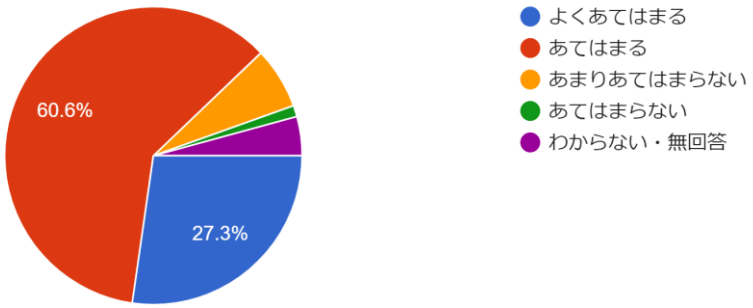


12）学校は保護者や地域の人が積極的に教育活動にかかわれるようにしている。
165 件の回答



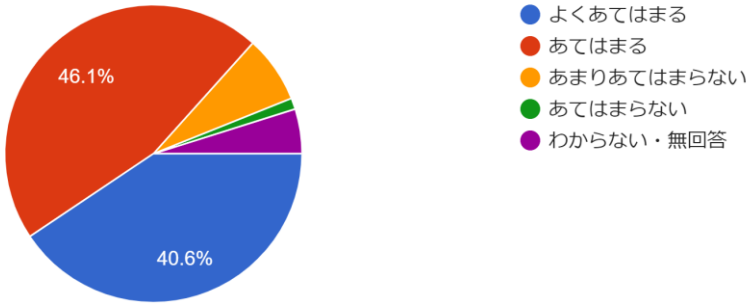
13）学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。

165 件の回答



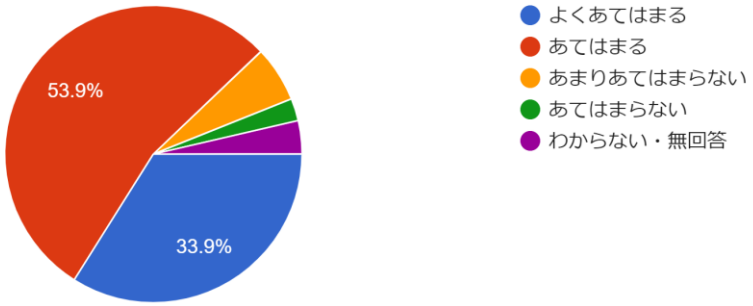
14）学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。

165 件の回答

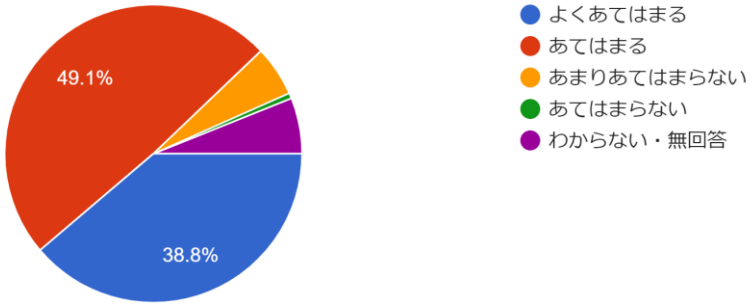


15）学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすくて内容も適切である。

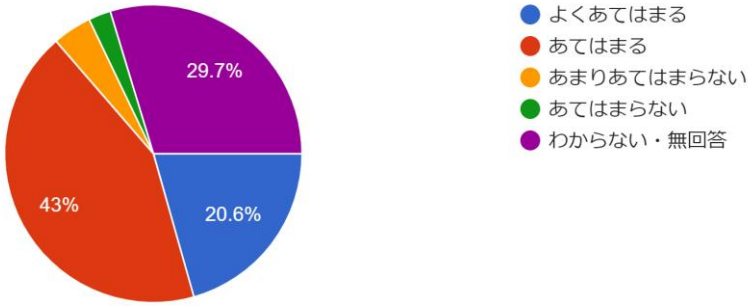
165 件の回答



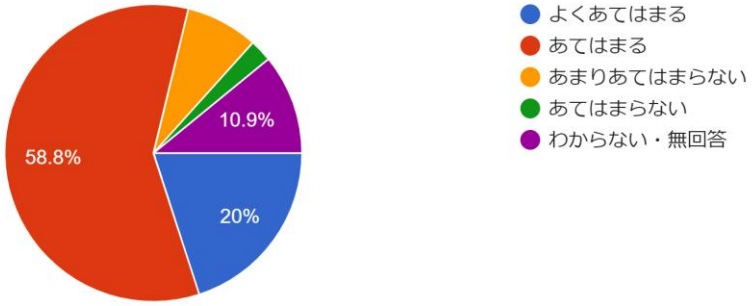
16）学校はタブレットや図書室を活用している。
165 件の回答



17）学校は外部講師を生かした教育をしている。
165 件の回答



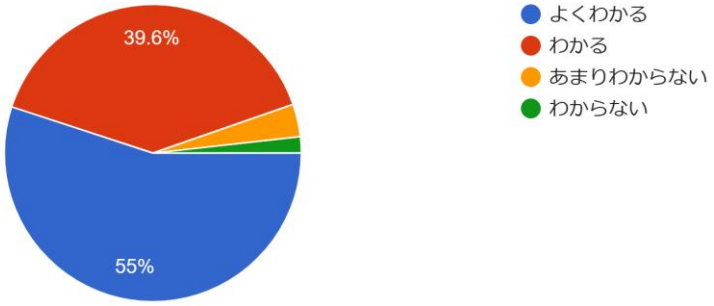
18）保護者は学校の教育活動を理解し、協力している。
165 件の回答



児童アンケート

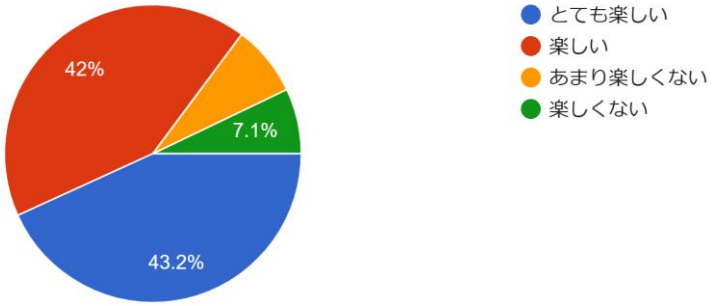
1）授業の内容はよくわかりますか

169 件の回答



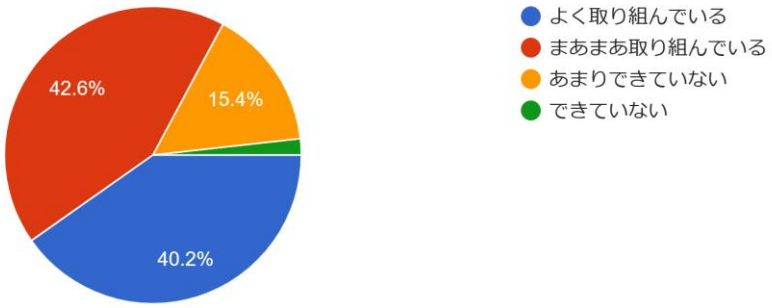
2）学校にいくのが楽しいですか

169 件の回答



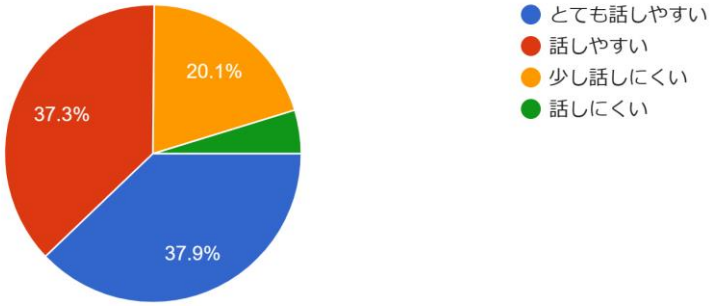
3）自分の体力づくりに取り組んでいますか

169 件の回答



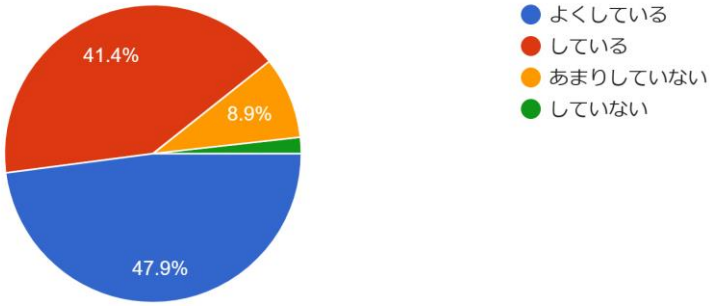
４）学校の先生たちに分からないことを聞きやすいですか

169 件の回答



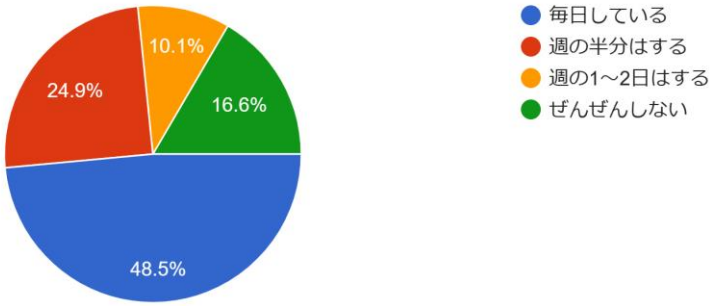
５）友達や先生たちに元気よくあいさつをしていますか

169 件の回答



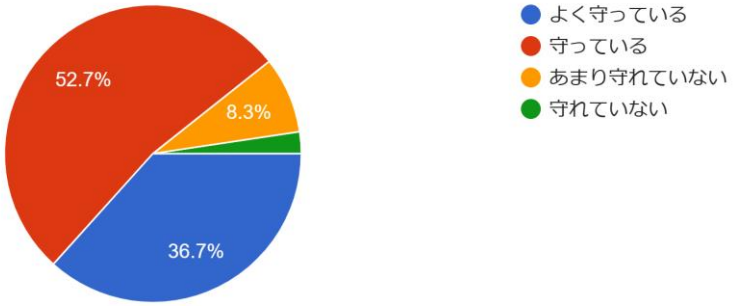
６）学校から帰って毎日【学年×１０分以上の】学習をしていますか

169 件の回答



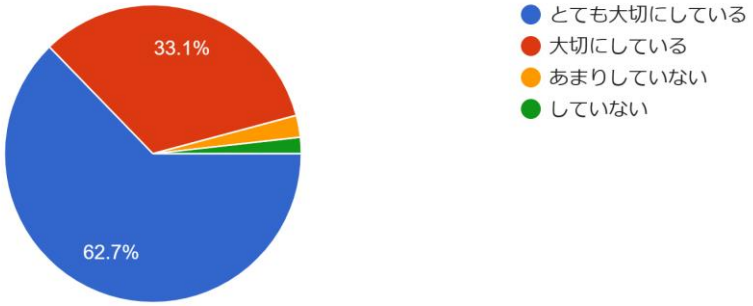
7）学校の約束を守っていますか

169 件の回答



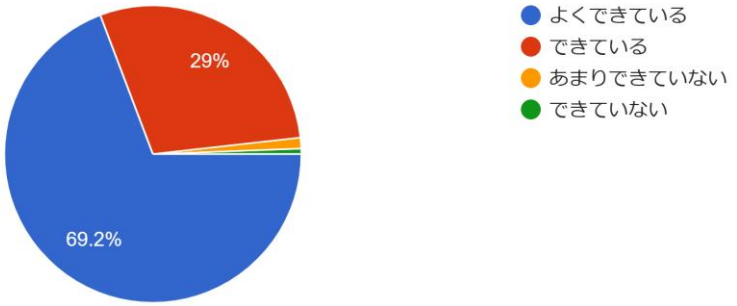
８）みんなで使うものを大切にしていますか

169 件の回答



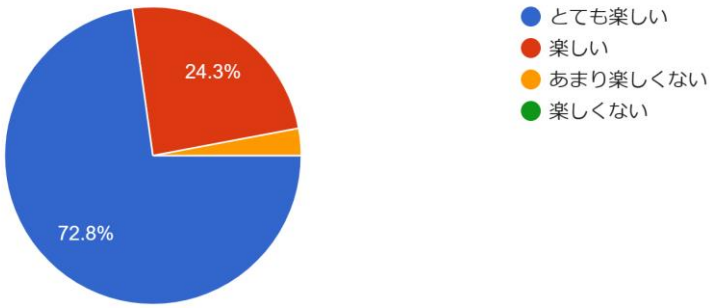
9）友達と仲よく生活していますか

169 件の回答



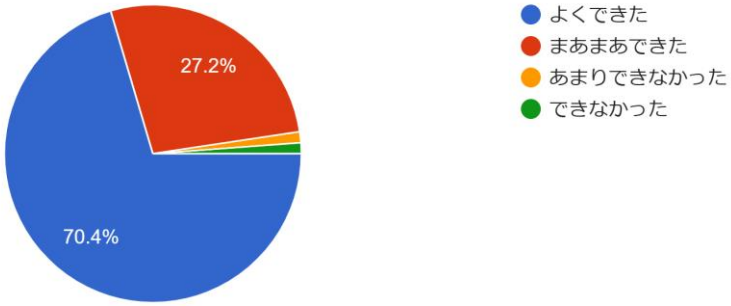
10）運動発表会や月一祭、展覧会は、楽しく取り組めましたか

169 件の回答



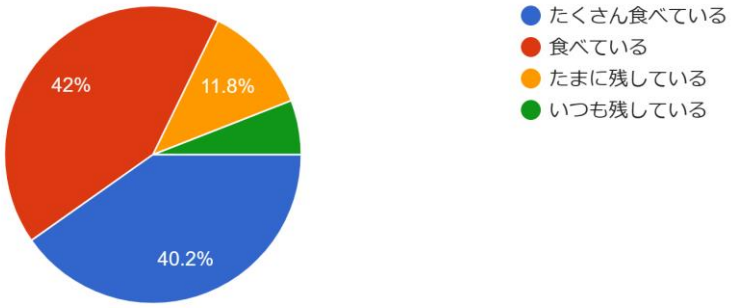
11）校外学習で学びを深めることができましたか

169 件の回答



12）給食は自分で決めた量を残さず食べていますか

169 件の回答



３　今後の改善方策

・　学習指導の効果を高めるタブレット端末を含めたＩＣＴ機器の活用を推進し，教師の授業技術との関連を意識していく。活用の場面やタイミング、活用する上での創意工夫が教師の授業技術に大きく関わっていると考えられるため、校内研究や授業実践を行うことで各教科の中に定着させ、児童の論理的に考える力を育成していく。
　また、新たに導入される「Ｑｕｂｅｎａ」などのＡＩソフトも活用し、ＩＣＴ環境を整備することで、より授業の質を高めていく。

・　児童の問題や悩み、トラブルへ対して、実施した児童アンケートを活用し、迅速な対応を図る。年間３回、担任による面談を実施し、児童の話をよく聞き、気持ちを受け止め児童の悩みを解決していく。
　家庭・養護教諭・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学校サポートチーム等と連携・協力していく。

・　タブレット端末を活用し、学校評価アンケートの回答を入力していただいたが、紙ベースで行っていた頃よりも回収率が低くなってしまった。学年・学級だより等で周知を促したが、認識いただけなかった部分もあった。引き続き、評価制度の意義を伝えたり、各担任からの声掛けをしたりすることでアンケートの回収率を上げていく。